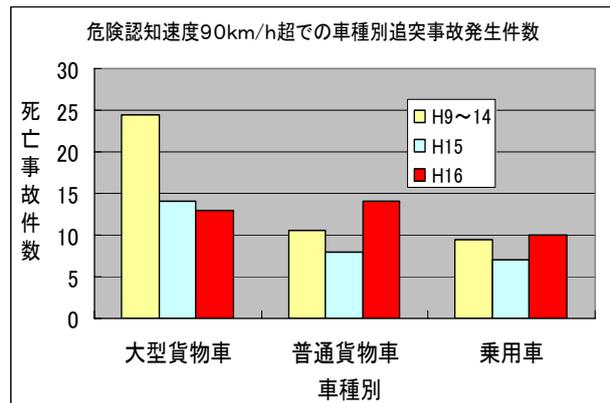
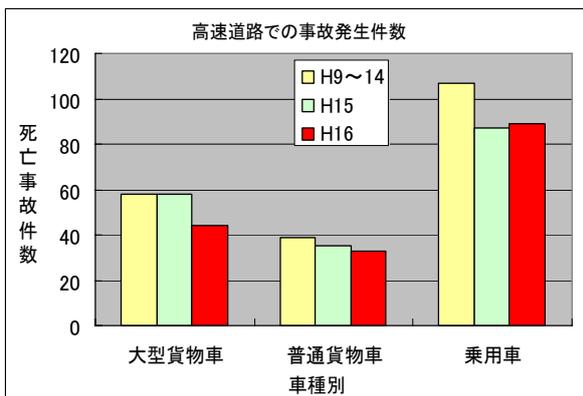


(参考1) 大型貨物自動車のスピードリミッタ装着の効果の概略 (平成17年度調査)

(1)安全面での影響

- ① 高速道路での大型貨物自動車による死亡事故が平成16年度で44件であり、約25%減少している。(平成9~14年の平均58件、平成15年度58件)
- ② 特に、危険認知速度が90km/hを超える速度での大型貨物自動車の追突に依る死亡事故が平成16年度は13件であり、スピードリミッタ装着前より、約47%減少している。(平成9~14年の平均24.5件、平成15年14件)
- ③ ただし、インターチェンジから流入する車両と大型貨物自動車との事故が、平成15年以降増加している。これは、大型車の走行車線での走行が増加していることが原因と考えられる。

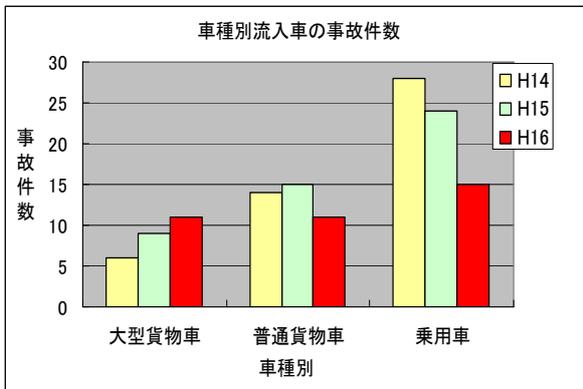


①車種別死亡事故、重傷事故件数

(平成9年~14年の平均、15、16年、全高速自動車国道)

②危険認知速度90km/h超での車種別追突死亡事故件数

(平成9年~14年の平均、15、16年、全高速自動車国道)



③ 車種別の流入車の事故件数

(全高速自動車国道、平成14、15、16年)

(2)交通流に与える影響

- ① 概して、スピードリミッタ装着車の割合が増加すると、平均速度が低下する傾向にある。
- ② また、渋滞については、一般ドライバーへのアンケート調査の結果「増えた」と感じる人と、「変わらない」と感じる人がほぼ同程度であった

(3)その他

- ① 物流への影響としては、物流体系の変化は見られなかったが、輸送の長時間化等の影響も一部では見られている。
- ② トラックの平均速度等から推計した、CO₂削減効果は、平成17年時点で31~66万トと推計されている。

注) 平成18年8月末時点では約63%の大型貨物自動車にスピードリミッタが装着されているが、本調査が行われた平成16年でのスピードリミッタの装着率は約30%である。